



Title	信多純一教授略歴・論著目録
Author(s)	
Citation	語文. 1995, 62-63, p. 97-102
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68875
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

信多純一教授略歴

昭和六年九月二十日生	京都大学文学部卒業
昭和二十九年三月	京都大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和三十二年三月	京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
昭和三十五年三月	松蔭短期大学助教授
昭和三十七年四月	奈良女子大学文学部助教授
昭和三十九年四月	大阪大学文学部助教授
昭和四十三年十月	大阪大学文学部助教授
昭和五十六年三月	文学博士（大阪大学）
昭和五十六年九月	大阪大学文学部教授
昭和六十一年六月	大阪大学評議員（任期二年）
昭和六十三年四月	大阪大学文学部長（任期二年）
昭和六十三年四月	大阪大学評議員（任期二年）

論文

- | | | |
|--------------------------------------|-----------|-----------------------|
| 京都に於ける字治加賀塚——宇治座を中心として | 昭和二十九年十月 | 近世文芸創刊号 |
| * 延宝期淨瑠璃の作品構成——プロットを中心として | 昭和三十二年一月 | 解釈と鑑賞 28 · 1 |
| * 淨瑠璃史から見た『凱陣八島』作者の問題 | 昭和三十二年八月 | 文学史研究 7 |
| * 『津戸三郎』と『門出入八島』 | 昭和三十二年十二月 | 西鶴研究 10 |
| 『出世景清』の成立について | 昭和三十四年六月 | 近松の研究と資料第一 (演劇研究会論文集) |
| (日本文学研究資料叢書『近松』 有精堂出版 昭和五十一年三月再録) | 昭和三十四年六月 | 国語国文 28 · 6 |
| * 助六心中淨瑠璃の初演とその意義——切淨瑠璃と世話物の問題 | 昭和三十七年四月 | 国語国文 31 · 4 |
| (日本文学研究資料叢書『淨瑠璃』 有精堂出版 昭和五十八年十一月再録) | 昭和三十八年八月 | 近松の研究と資料第二 (演劇研究会論文集) |
| * 元禄劇壇研究ノート——その一観客 | 昭和三十八年八月 | 松蔭短期大学研究紀要 5 |
| * 元禄期の口上について | 昭和三十九年二月 | 解釈と鑑賞 30 · 3 |
| 興行の実状——観客を中心にして | 昭和四十一年三月 | 芸能史研究 14 |
| * 近松世話淨瑠璃における口上と手妻について——元禄劇の慣習に関する研究 | 昭和四十一年七月 | 日本美術工芸 9 |
| (『江戸人物読本・近松門左衛門』べりかん社 平成三年十月再録) | 昭和四十一年十一月 | 農村舞台の総合的研究 (桜楓社) |
| 説経節の正本について | 昭和四十三年十一月 | 演劇研究会会報 2 |
| 天満八太夫雑考 | 昭和四十三年十一月 | 説経正本集 第三 (角川書店) |
| 楚天国の諸本 | 昭和四十三年十一月 | 帝塚山演劇学 2 · 1 |
| * 近松世話淨瑠璃の方法——心中物を中心として | 昭和四十四年五月 | 演劇研究会会報 9 |
| 「のるま」と「そるま」——諸本紹介を中心として | 昭和四十五年六月 | 日本美術工芸 9 |
| 道化人形の足跡——のろまそろまを中心 | 昭和四十五年九月 | 文林 6 (八代城助先生追悼特輯) |
| 山と海の人形舞台 | 昭和四十六年三月 | |
| * 『傾城反魂香』試論 | 昭和四十七年三月 | |
| (日本文学研究資料叢書『近松』 有精堂出版 昭和五十一年三月再録) | 昭和四十七年三月 | |

夢想『物くさ太郎』論
『阿弥陀胸割』復原考

昭和四十七年十二月
昭和四十八年 一月

谷山茂教授退職記念国語国文学論集
近世文学——作家と作品
(中央公論社)

阿闍梨契沖伝漫考

昭和四十八年 三月

近世大坂芸文叢談
(中尾松泉堂・赤尾照文堂)

西鶴説絵考
『万の文反古』切継考

昭和四十九年 九月
昭和五十年 九月

語文32
西鶴論叢 (中央公論社)

中世小説と西鶴——『角田川物かたり』と『好色五人女』をめぐって
古典と西鶴——『好色五人女』巻四をめぐって
(『江戸人物説本・井原西鶴』べりかん社 平成元年十一月再録)

昭和五十年 九月
昭和五十年 九月

文学44・9

西鶴本の挿絵
にせ物語絵
変り涅槃図

昭和五十三年十二月
昭和五十四年 五月

西鶴物語 (有斐閣)
日本屏風絵集成 五巻 (講談社)

平曲・舞・説経と淨瑠璃
国性爺 (詞章と注釈)

昭和五十五年 三月
昭和五十五年 三月

日本古典音楽大系 五巻 (講談社)
元興寺文化財研究所

『淨瑠璃』古活字版系二種 〈影印・翻刻〉——関川本『淨瑠璃』の紹介を
中心に

昭和五十六年 六月
昭和五十七年 四月

大阪大学文学部紀要10
語文38

『むらまつ』諸本成立考
『切上り曾根崎心中』の成立について

昭和五十六年 十二月
昭和五十七年 七月

語文39
大阪の都市文化とその産業基盤
(共同研究論集1)

師宣慕效——延宝三年江戸四座役者付考
大阪の芸能と地方への伝播——元禄期宇和島藩日記記事を中心にして

昭和五十九年 十二月
昭和六十一年 七月

語文49
大阪の都市文化とその産業基盤
(共同研究論集2)

『橋弁慶』の基底
『国性爺合戦』の龍虎

昭和六十一年 十二月
昭和六十二年 七月

語文49
大阪の都市文化とその産業基盤
(共同研究論集2)

大阪の芸能と地方への伝播 (続)——若国藩日記記事を中心にして
『橋弁慶』の基底
『国性爺合戦』の龍虎

昭和六十二年 九月

観世54・7
語文49

三十三所観音めぐりと玉造稻荷	昭和六十三年十二月	またま（玉造稻荷社）
〈浮世絵評釈〉浮世絵と謡曲（その一）——春信の『通い小町』	昭和六十三年十二月	観世55—12
〈浮世絵評釈〉浮世絵と謡曲（その二）——『そとば小町』の展開	平成元年一月	観世56—1
〈浮世絵評釈〉浮世絵と謡曲（その三）——『鷺鶴小町』ほか	平成元年二月	観世56—2
〈浮世絵評釈〉春信と『和漢朗詠集』	平成二年三月	大和文華81
『里見八犬伝』と北斎	平成四年九月	読本研究六輯
舞台と共に眠る人形首の逸品	平成六年四月	農村舞台探訪（和泉書院）
近松発掘——てんぐのだいりを中心に	平成六年四月	近松全集第十七巻月報
『新道行揃』（翻刻・影印・解題）	昭和三十四年六月	まがたま（玉造稻荷社）
能狂言『松風』	昭和三十八年八月	近松の研究と資料第一（演劇研究会論文集）
鼻笛集（下巻）	昭和四十一年十二月	近松の研究と資料第二（演劇研究会論文集）
杜撰之記——湯沢佐竹家御日誌	昭和四十二年五月	文林1
悼東作翁夷曲歌	昭和五十四年五月	演劇研究会会報3
〈対談・シンポジウム〉江戸時代の生活に生かされた版画（三井淳生氏と）	昭和五十九年七月	日本の美術7「仏教美術」
*近松を考える——研究の現在と展望（廣末保氏と）	昭和六十一年二月	国文学30・2
シンポジウム日本文学7『近松』	昭和五十一年七月	天明文学——資料と研究（東京堂出版）
（司会松崎仁）廣末保・原道生・土田衛・信多純一・諏訪春雄	昭和五十三年六月	現代人形劇センター
シンポジウム近松と現代人形劇（司会阪口弘之）吉田清治・信多純一・吉永孝雄・宇野小四郎・須田輪太郎・芳川雅男	昭和五十三年六月	

義太夫年表〔義太夫年表近世篇刊行会編〕全五卷	昭和五十四年十一月	八木書店
〔別巻（補訂篇・索引篇）平成二年十一月上梓〕	昭和五十七年三月	
上方役者一代期集〔上方芸文叢刊刊行会編〕	昭和五十四年十二月	
在外奈良絵本〔奈良絵本国際研究会議編〕	昭和五十六年五月	
しやうるり十六段本〔横山重と共編〕	昭和五十七年一月	
絵巻 山中常盤〔辻惟雄・安岡章太郎と共に編〕	昭和五十七年十二月	
狂歌大観 第一巻（本編）〔狂歌大観刊行会編〕	昭和五十八年一月	
（全三巻、第二巻（参考編）昭和五十九年四月・第三巻（索引編）昭和六十年三月上梓）	昭和六十年三月上梓	
日本の旅人（朝日カルチャーブックス21）〔五来重他と共に編〕	昭和五十八年四月	
赤木文庫（古淨瑠璃）目録〔秋本鉛史・時松孝文・高木美代子と共に編〕	昭和六十一年三月	
近松全集〔近松全集刊行会編〕全十七巻	昭和六十一年三月	
（伝記資料部単独担当）	昭和六十一年三月	
近松門左衛門集（新潮日本古典集成）	昭和六十一年十一月	
近松門左衛門集（新潮日本古典集成）	昭和六十一年十一月	
上方の文化——近松門左衛門をめぐって〔大阪女子大学国文学研究室編〕	昭和六十三年六月	
古淨瑠璃正本集 加賀豫編〔古淨瑠璃正本集刊行会編〕全五巻	平成元年二月	
近松への招待（岩波セミナーブックス30）	平成元年二月	
〔鳥越文蔵・内山美樹子・井口洋と共に著〕	平成元年十一月	
古淨瑠璃正本集 角太夫編〔古淨瑠璃正本集刊行会編〕全三巻	平成二年七月（刊行中）	大学堂書店
人形淨瑠璃舞台史〔人形舞台史研究会編〕	平成三年二月	八木書店
近松の世界	平成三年七月	八木書店
道と巡礼——近世芸能にみる巡礼（棲徳堂ライブラリー1）	平成五年十二月	平凡社（各*印所収）
和泉書院		和泉書院